

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム しずくいし (かっこう)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	037210966		
法人名	株式会社しずく		
事業所名	グループホームしずくいし (かっこう)		
所在地	岩手県岩手郡西安庭第15地割81-26		
自己評価作成日	平成27年11月12日	評価結果市町村受理日	平成27年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiryosyoCd=037210966-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27年11月26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

園芸療法、音楽療法を行事の一環として行っています。地域と連携しながらご本人がより安心して暮らせる場の提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、後方には名峰岩手山、前方には、御所湖という大自然に囲まれた中に立地し、日々、四季の移り変わりを五感で感じながら、生活を送っている。特に、一日の過ごし方を利用者とともに考え、それぞれのペースに合わせた生活(食事の準備や食材の買い出し、洗濯や居室の清掃等)を送ることを大切にしている。また、しっかりしたモニタリングを実施するため、「転倒・転落アセスメントスコアシート」や「心身の情報シート」等を導入し詳細に評価チェックし、次の介護計画に反映するなどの工夫をしている。ホームは「子供の家110番」の指定も受けるなど、地域の大切な場所として認識されている。園芸療法や音楽療法を取り入れた支援が特徴的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム しずくいし (かっこう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送時に理念を唱和し実践につなげている。	開設時に作成した理念を毎日、職員が唱和・確認する中で、とりわけ「その人らしく」を、強く意識して、日々のケアが行われている。今後は、随時、立ち止まって、理念の意図を理解しながら、ケアに当たりたいとしている。	理念の各項目の視点・意図について、具体的な内容・ケア等の対応の面から確認しあうことを期待したい。(例「快適な生活」とは、「地域とのきずな」、「尊厳」とはなど)
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど地域の方々を招き交流の機会を回している。夏休みのラジオ体操に参加する子供たちに場所を提供している。地域婦人消防協力隊には年に一度参加してもらっている。	普段には、散歩する中で、行き交う方と挨拶や立ち話で触れ合うほか、ホーム主催の夏祭り等に地域の皆さんを招待して交流している。地域とは「子供の家110番」を担い、また「ラジオ体操」の場として解放し、一緒に参加している。	地域とはホーム主催行事などを通じて交流を深めているが、地域と幅広く交流を深めるために、地域行事への一層の参画、周辺の保育園との交流、小中学校の運動会の見学等も一考である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報等の作成、配布を行い地域への人々へ取り組みを理解してもらうよう努めているが充分とはいえない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとの運営推進会議にて、民生委員、区長、役場の方々と情報交換をしている。	事業所報告を中心としながら、定期的に開催している。会議では「職員募集の仕方」等に助言を得るなど、有意義に運営されている。今後は、利用者の日常を見学・体感していただきながら、意見提言に繋げたいとしている。	運営推進会議をより有意義とするため、事業報告だけでなく、地域情報を得たり、事業所の課題に対する支援・協力・提言を求めたり、安心・安全等のテーマで駐在所や消防署を招いて学習することなども一考である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者と疑問があれば相談するようにしている。また運営推進会議時に情報交換を行っている。	日常的な行き来は少ないものの、運営推進会議に常に参加を得て、情報交換や指導を得ている。生活保護担当の定期的な訪問のほか、必要に応じ役場に出向き、情報交換や相談等をしており良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、理解を深めている。夜以外は施錠をしていない。	今年度も外部研修を受講し、その結果を他の職員に伝達講習をするなど、身体拘束廃止の理解を図っている。特に、言葉による制止や抑制の拘束排除や、ホーム内で発生しやすく、見逃しやすいケース(車椅子対応、ベッド柵使用)の具体的なケースで確認し合いケアに当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方がいるが、職員個々の理解は十分とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時 行き違いがないように十分に説明するよう注意している。また契約時の注意点など事前理解ができるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の思いや、ニーズに耳を傾け要望等を話せるようにケアプランの意向の確認を全職員が行いモニタリングできるように心がけている。	意見箱設置は勿論、面会時や行事参加時の他、家族会を年2回開催して、利用者・家族の意見提言を得るようにしている。運営に関する意見は無いものの、今後も広報や「お便り」を通して意見を出し易い環境づくりに心掛けたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に 職員の意向を管理者が聴き、係間で調整しながら運営全体を進めてゆくようにしている。	毎月の職員会議で思ったことを言い合える関係となっている。最近では、「職員不足の補充のあり方」や食材の値上がりに対する「食材の購入場所の変更」、「車椅子対応車両購入」など、職員意見によって実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要時 職員の様子を聞き取り、向上心をもち働けるように努めている。またキャリアアップ支援制度の活用も行い職員のステップアップを図るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年二回の考課表を基に スタッフの力量把握に努めている。また必要時管理者より日ごろの様子を聞き、法人内外の研修の機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内での行事での交流の機会などがある。またグループ内で勉強会の機会があり全体のサービスの質の向上にめけて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用する際には必ず本人と面談するように心がけ、本人のこれまでの様子を伺い、本人の生活への悩みや希望など把握するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談もしくは面会などで訪れた際に家族思いや不安などについてもできるだけきめ細か聞くように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時利用者のそれまでの情報に基づいて 暫定的な介護計画を作成し必要としている支援をできるように努めている。また入所時の本人 家族のニーズ把握に努め意向を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者と共に食事を作ったり、片付けたり、掃除など家事などを共に行い会話を増やしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	郵便物等に職員手書きのお便りを同封し、近況報告などもお知らせしている。行事の際には家族も参加いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら馴染みの美容院へ行く等支援につとめている。ドライブや町内のスーパーへの買い物へ出掛けることで馴染みの人たちに声をかけていただく機会がある。	毎月、訪問してくれる理容師さんや行きつけの美容師さんのほか、買い物を通しての、友人知人、店員さんなどの繋がりを大切にしている。今後も、これまでの関係、新たな関係を含め、馴染みの関係が途切れないように支援したいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の外出、散歩、家事を通じて関わり合いの場を提供している。入居者同士の関係が円滑になるよう必要ときは席替えを行うときもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の方と会う機会には近況様子などを伺うように努めている。また退所され他の場所へ移られたときは関係機関等へ可能な限りご本人の様子など入所時の情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に対するアセスメントでは思いや希望に近づけられるよう努めている。	思いや意向の把握には、「普段の声がけが必要」とのスタッフの意見を踏まえて、「私の姿と気持ちシート」に利用者の普段の気持ちを記入するなどして、把握に努めている。また、随時、把握した内容を追加、修正し、気づきや変化を記録・共有しながら、本人本位のケアを追及している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、家族が来られた際に本人、家族から聞き取りを行い把握に努めている。また入所前の様子を関係機関から本人やご家族の状況を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人からアセスメントを取る際 具体的な様子をチャートなどに記載し、プラン作成時できること 出来ないシートの活用を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで見直しをし3ヶ月に一度更新している。毎月スタッフからの情報を集めてゆくことで現状に見合ったプランの作成づくりに努めている。	介護計画は、アセスメントや家族の意向、居室担当が行うモニタリングを基に作成する「心身の情報シート」や「転倒・転落アセスメントスコアシート」を参考に、さらにスタッフの意見を踏まえて作成している。なお、毎月開催するカンファレンスを踏まえ速やかな見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人に対しスタッフの気づきを書いてもらいチーム間での共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リーダー研修受講者がおりGHでの空床を利用してのグループホームでのショートステイを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の歌声喫茶 軽トラック市へ出掛け地域資源の活用を積極的にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は個々の主治医のもとに家族対応にて受診している。急変時は事業所にて対応し協力病院は入院受け入れ可能な繋ぎ温泉病院である。	医療利用は、利用者・家族が希望するかかりつけ医である。通院は、家族同行を基本にしているが、遠方や対応不可の場合等は、職員が同行するなど臨機に対応している。医師へは必要情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間オンコール体制であり、利用者急変時、体調不良時は看護師と密にと連絡を取り合い迅速な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、ケースワーカーなどと連絡調整を行い早期の対応を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早期の段階で主治医から 本人ご家族に対して 病状の説明をしてもらいカンファレンス時 看護師 管理者が同席するようにしている。グループホームでの生活が難しい場合次のステージを紹介したり関係医療機関 ご家族と協働で受け入れ先を探してゆく。退院後継続入所可能な場合引き続き安心して暮せるように医療機関と情報をとりあい重度化に対応できるよう努めている。	看取りの対応指針は作成整備しているが、これまで実際に対応したケースはない。なお、利用者・家族には、利用開始時に食事が取れるか等生活が難しいときは他施設を紹介するなど説明し了承を得ている。なお、今後は、重度化を含め見取り対応をできるようにするため、不安解消に向けた学習等を行い、利用者・家族の期待に応えたいとしている。	地域密着型サービスの普及とともに、ホームでの重度化や看取り対応に期待が高まっている。ホームには看護師を配置するなど人材が確保されており、今後は、職員の不安解消を図るため、外部や内部研修の実施、医療機関との連携など受け入れ体制の構築に向けた話し合いに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時の対応マニュアルがある。新規の職員へ心配蘇生法の講習を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練があり、地域婦人消防協力隊の参加、消防署の立会のもと訓練を行っている。	夜間想定や消火訓練など、消防署の立会の下、また利用者も参加し訓練を実施している。訓練では近隣の3人には見守り協力や、秋の訓練では地域婦人消防協力隊の支援を得ている。今後は、AED研修などの受講もしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの位置にカーテンを設けるなどプライバシーに配慮している。声がけなども自尊心を傷つけないような声がけを心かけている。	人生の先輩として、また、利用者への最大限の尊重に心がけ、特に男性の利用者もいることから、声がけの時には「さんづけ」や生活歴に応じた対応に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択し希望を言える場所や雰囲気を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその流れは決まっているが、可能な限り本人の希望を伺い、柔軟に対応している。食事の時間をずらしたり できるだけ人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合った服装と好みに合わせ一緒に考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができる事を手伝ってもらいながら準備や片づけを行っている。会話をしながら献立に組み入れている。茶碗拭き 食器片付け テーブル拭きなどしている。	献立はリクエストを聴き、食材の買い出しには利用者も一緒に出かけ、食事作り、配膳、下膳、茶碗拭き(男性も参加)など、それぞれの場面で役割を果たしている。食事中はテレビを消し、職員も一緒に、近隣からのお裾分けなどを話題にしなが、ゆっくり食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が偏らない様に心がけその人に合った量を提供し、食べる速さ、順序などを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	献立を工夫し 毎時食事量をチェックする。その人に合わせた量 大きさ 硬さ 味付けを工夫し提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をチェックし、排泄パターンに応じた声かけを行い、自立した排泄が出来るように職員全体で取り組んでいる。	排泄の自立は、生活の自立にも大きく関係するとの認識のもとで支援した結果、自立改善が図られた方もおり、排泄の記録をしっかり行い、適時適切な声掛けを行いトイレ排泄に努めている。ポータブルトイレの利用者はいない。なお、良好な体調管理を行うため水分補給には特に気を遣っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物の調整、軽い体操を取り入れたり、室内を歩行練習したりして日々取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前 午後と入浴が可能であり、健康状態に状況に応じ順番等制約される場面もある。週2～3回を目安に行い入浴後は脱水防止のため水分補給を欠かさず行う。	入浴を嫌う利用者はおらず、希望や体調を考慮しながら、週2～3回の入浴支援に努めている。入浴中は、歌を口ずさんだり、職員と談笑したりなど、思い思いに入浴を楽しんでいる。なお、季節の柚子湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に休憩時間 就寝時間が異なるが安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録 処方記録 副作用 薬箱に処方内容に添付し夜勤者 早番者がチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、行事等で、入居者個々の状況をふまえて希望に沿うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事等 戸外で温泉などに出掛外食を楽しんだりしている。地域の行事へも参加を行っている。	普段は、周辺を散歩したり、買い物に出かけているほか、高松の池や、道の駅等にドライブしたり、チャグチャグ馬コ見学に出かけている。家族が正月やお盆、外食に連れて行ったりして、家族との交流も深めている。今後は、寒い時期の外出や出かけたがらない方への気分転換の方法を考えていきたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かって事業所が管理している。必要に応じて使うことが出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って好きな時間に話ができる。可能な限り本人の希望により電話をかけられるよう職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を置いたり 行事の写真を飾ったりしている。	社員寮の再利用であるが、共用スペースには太陽の光が差し込み明るく温かい。窓からは、外の景色が良く見え居ながらにして四季を感じ取れる。台所は開放的であり、食事作りの風景や匂いが漂い、家庭の雰囲気を実感される。壁には行事写真などが張られ、花も飾られ落ち着いた居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースではあるがソファを置き入居者同士が交流できる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を工夫し行事写真を飾りいつも見てもらえるようにしている。	部屋には、備付けのベッドとクローゼットがあり、衣類を整理整頓しながら、時計やカレンダー、家族写真などを飾っている。テレビを持ち込み好きな番組を見ている利用者もいる。居室に日差しが差し込み、外の景色も見え四季を感じながら自分の部屋として居心地よい生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で衣類整理できるように紙を張ったりしている。各居室のネームプレート、トイレや風呂場の表示 段差の注意書き等 できること 分かる事を最大限に生かせるように見守っている。		